

君の志はなんですか？



日本放射線安全管理学会
副会長 中島 覚

NHKの大河ドラマを時々見ます。「花燃ゆ」は視聴率で苦勞しているようですが、私は面白いと思っています。大河ドラマでは戦国時代と幕末は人気が高いです。その中でも幕末は、若者が日本の将来を憂えて諸国の仲間と連携を取りながら成長し、活躍している姿が見られ、多くの人を引き付けます。「花燃ゆ」の中で寅次郎(吉田松陰)は問います。「高杉君、君の志はなんですか？」松下村塾で学んだからこそ、高杉晋作や久坂玄瑞のその後の活躍があったのだと思います。吉田松陰の思いは、彼が亡くなった後も若い人に引き継がれていきました。このような幕末の若者の活躍があったればこそ、日本が欧米列強の植民地にならず、大政奉還、明治維新へとつながりました。

個人的なことですが、私は化学を志して学位をとりました。学位をとって、ポスドクをやって、アカデミックポジションに何とかつくことができました。助手に着任したころはまだ若かったこともあり、学生と楽しく研究をしておりました。それから数年して、私どもの大学にアイソトープ総合センターができましたので、移動することになりました。最初の仕事は施設の増改築の概算要求でした。しかしなかなか概算要求が通らず、その分、化学の教育研究に時間を使うことができました。何年かして概算要求が通り建物が建つことが決まるとそちらの方で大変忙しくなりました。化学研究に割ける時間が少なくなりました。しかし、そのような状況だからこそ化学への志を意識できたとも言えます。少しぐらい恵まれていない方が志を忘れないかもわかりません。

放射線管理に関して、私たちのグループのメンバーに多くの仕事をやってもらっており、大きなことを言える立場ではありません。そんな中で、私たちのグループが測定してきた環境中の放射能を眺めていると季節変化がみえました。化学でなくても、面白いことがあると思いました。放射線管理業務をやっているのも不思議だな、面白いな、ということがあるものです。おそらくどんなことでもそうだと思います。さらに自分の施設だけではありません。この仕事に携わっていると、福島に関して支援できるわけです。充実した人生ではありませんか。

放射線取扱主任者や放射線管理担当者に選任されている多くの方が、学生時代の専門は、物理、化学、生物、工学、薬学等であり、放射線管理は専門ではなかったと思います。選任されてから現場で苦勞されながら放射線管理に携わっている方が多いと思います。そうであってもそれぞれの志を忘れないでください。それまでの専門に固執するのも一つです。また、放射線管理という新たな世界が広がって面白いと考えることも一つです。管理の中から面白いテーマが見つかり、そこからどんどんと広がっていくと思います。もちろん、その両方に取り組むというのでもあります。いずれにしてもやるしかありません。

志を表現する一番分かりやすい方法が論文執筆だと思います。論文を一つ一つ書いていくしか他の分野の方に、すなわち学内の方に、アピールする方法はありません。幸い私たちの学会は邦文誌と英文誌を持っています。前期まで編集委員会委員長を務めましたが、投稿が少ないと感じていました。ぜひご活用ください。

当初私は、たまたま放射線管理について人が独自に頑張るしかないと思っていました。しかし、放射線管理の将来を考えるとそうも言っておられません。将来を考えると人材の養成が肝要です。保健学科等には一部、放射線管理を行う人材を養成するシステムがあるかも知れませんが、

巻頭言

まだまだ十分とは言えないと思います。人材を養成する仕組みを作っていく必要があります。そして放射線管理に入ってきた若者が活躍するために、それを応援する仕組みを考えなければなりません。管理をやっていて評価される仕組みを作る必要があります。

歴史上の人物や、身の回りの先輩を拝見しておりますと、与えられた環境で精いっぱい頑張るしか道をひらく方法はないと思います。頑張っていれば不思議と周りの人が応援してくれます。ぜひ頑張ってください。最後にもう一度「花燃ゆ」から。「志は誰も与えてくれません。君自身が見つけ、それを掲げるしかない。君は何を志しますか？」



巻頭言